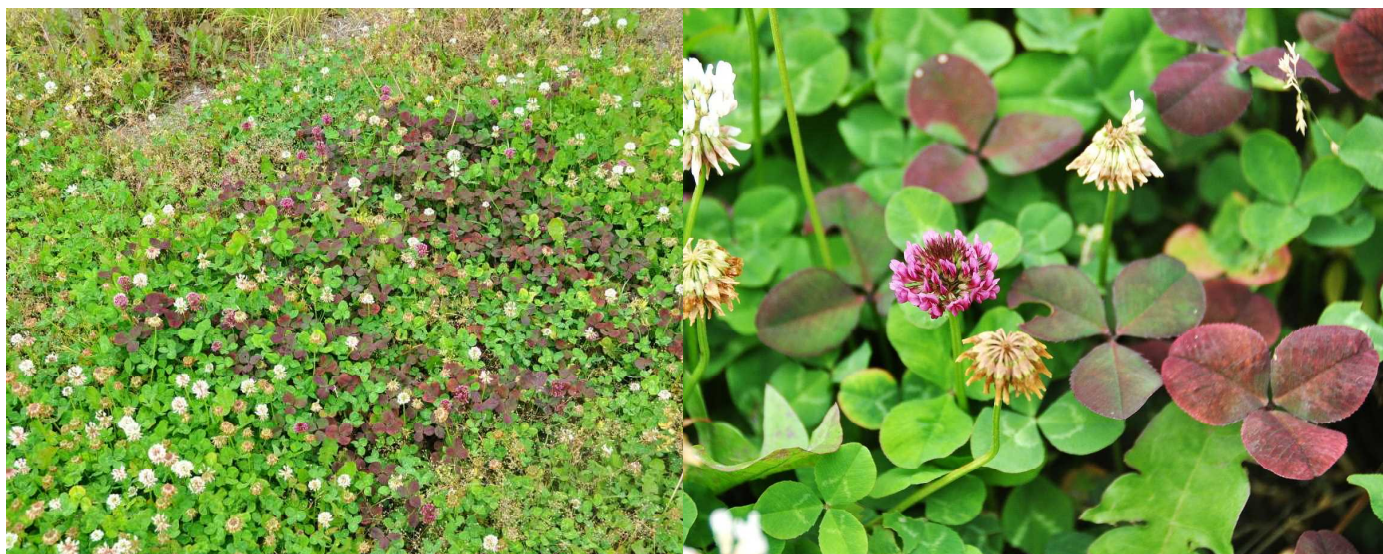


シロツメクサの紅葉？



シロツメクサ、別名クローバー（英名White Clover）。葉は3小葉または4小葉（四つ葉のクローバー）がある。中国でも、「幸運四葉草」（四つ葉のクローバーを意味する）という呼び方があるようだ。**四つ葉のクローバー**が出現する確率は、葉っぱ**10万枚に一枚**ともいわれている。四つ葉のクローバーは、見つけるのことが非常に珍しいことや、十字架の形に似ていることから、「幸運や幸福」のしるしとされてきたという。ちなみに、**五つ葉**は「経済的繁栄」、**六つ葉**は「地位と名声」、**七つ葉**は「無限の幸福」が花言葉になっている。花言葉があるということは、数は少なくとも探せばある、ということか。

シロツメクサは、もともと日本にあったわけではない。**江戸時代**（1846年）、オランダから持ち込まれたガラスの器のクッション材として干したシロツメクサが**詰め物**として使われていたという記録がある。つまり、壊れ物を輸入する際に詰め物にされていて、白い花が咲くので白詰草と呼ばれるようになったのである。さらに**明治時代以降**、栄養価の高い牧草として北海道を中心に導入され、やがて全国に広まり野生化しているのである。

2年生の「生物基礎」の授業で、校庭の植生調査をした際、ちょっと変わったシロツメクサを発見した。写真のように、葉っぱが**赤紫色に変色**（紅葉？）していて、**花の色も赤い**のである。シロツメクサの仲間で、ムサキツメクサ（またはアカツメクサ）という種もあるが、葉の付き方からするとムサキツメクサではない。そこで、栃木県立博物館の植物担当に写真を送って調べてもらうことにした。

ところが、どうもよくわからないらしい。季節はずれに紅葉が起きたわけでもない。（花まで赤くなることは説明できない。）少なくとも、いいかげんなことや断定的なことはいえないのだろう。ここからは自分の推測である。

ネットで「**赤クローバー**」で検索してみると、「**チョコレートクローバー**」「**赤葉クローバー**」などという名称の**園芸種**がヒットした。どうやら、シロツメクサの変種、あるいは品種改良（かけ合わせ？）によって、葉が赤味を帯び、花も赤色のものが園芸種として流通しているのである。こうした園芸種が校庭に紛れ込んだのが野生化し、通常のシロツメクサと交雑しながら広がっているのではないだろうか。校庭北側の空き地は駐車場としても使われることもあり、どこかで野生化したシロツメクサの園芸種の種子が車両にくっついてきたものが繁殖した、とは考えられないだろうか。



しかし、そもそも、これが園芸種であるかどうか不明であるし、別な原因で赤く変色したのかもしれない。**現時点では謎**である。今年は、お化けタンポポに続き、校庭で意外なものがみつかった。